

シンポジウム

災害・復興拠点としての女性センターを考える

— 3.11以降この一年を語りあう —

東日本大震災後、各地の女性センターでは被災者支援の取り組みが行われました。災害に際し、センターが直面した困難と果たした役割は？ 私たちはこの経験をどのように生かしていくのか？ 本財団が実施したヒアリング調査とパネルディスカッションを通して考えあいます。

第一部 調査報告

女性センターの被災者支援活動 —施設スタッフ・ボランティアへのヒアリング調査から
報告者 新井浩子 (公財) 日本女性学習財団専門調査員

第二部 パネルディスカッション

災害・復興拠点としての女性センターを考える —3.11以降この一年を語りあう
コーディネーター

相川 康子 (特活) NPO政策研究所専務理事、元神戸新聞論説委員

パネリスト

瀬山 紀子 埼玉県男女共同参画推進センター事業コーディネーター

長沢 涼子 福島県男女共生センター事業課副主査

福島 裕子 岩手県立大学看護学部准教授

村田 晶子 早稲田大学文学学術院教授

■日 時 2012年 **3月2日(金)** 13:00~16:00 (開場 12:30)

※終了後(16時~17時)、交流会を予定しています。

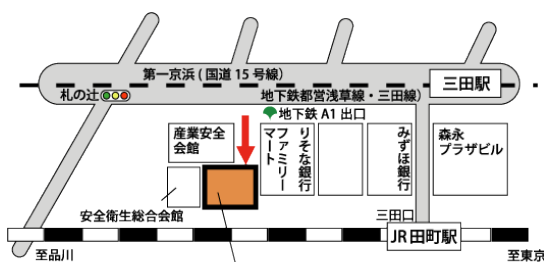
■会 場 **女性就業支援センター** 4階ホール (旧 女性と仕事の未来館)

・ JR 田町駅 三田口 (西口) 徒歩 3分 ・ 地下鉄 (都営浅草線、都営三田線) 三田駅 A1 出口 徒歩 1分

■参加費 **無料**

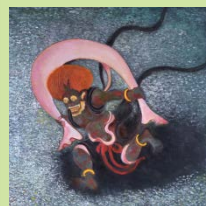
■定員 **200名** (先着順)

■申込み **裏面の申込書をお送りください**



女性就業支援センター

**同日
開催!**



「3.11 富山妙子の絵
によるメッセージ」展

『海からの黙示 津波』ほか

展示時間：10時~17時

公益財団法人 **日本女性学習財団**

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-8 日本女子会館 5階

TEL 03-3434-7575 FAX 03-3434-8082 E-mail jawe@nifty.com HP <http://www.jawe2011.jp>

<パネルディスカッション：登壇者プロフィール>

相川 康子（あいかわやすこ） （特活）NPO政策研究所専務理事

男女雇用機会均等法施行後の1期生として「神戸新聞社」に入社。阪神・淡路大震災の災害報道に携わり、2001年春から6年半は、防災・復興関連の社説を担当。神戸大学教員を経て2010年秋より現職。各地で防災と男女共同参画に関する講演や研修を行っている。

瀬山 紀子（せやまのりこ） 埼玉県男女共同参画推進センター With You さいたま事業コーディネータ

埼玉県男女共同参画推進センターで事業全般のコーディネートに携わる。3.11後は、市民ボランティアと協力して、さいたまスーパーアリーナの避難者を支援。現在も、センターで「さいがい・つながりカフェ」などの支援を続けている。東日本大震災女性支援ネットワーク世話人。

長沢 涼子（ながさわりょうこ） 福島県男女共生センター 女と男の未来館事業課副主査

2000年、(財)福島県青少年育成・男女共生推進機構に就職。センターの立ち上げからプロパー職員として勤務し、11年目の昨年、震災に遭遇した。3.11後は、地域の女性グループと連携して、県内最大規模の避難所となったビッグパレットふくしまの女性専用スペースを運営した。

福島 裕子（ふくしまゆうこ） 岩手県立大学看護学部母子看護学講座准教授・助産師

専門は、助産学、女性健康看護学。3.11後は、もりおか女性センターと協力して大きな被害を受けた沿岸地域の避難所を訪問。助産師として、女性被災者のケアや情報提供を行った。性と生の健康教育を実施する助産師の集まり「ハッピーバース研究会」顧問。

村田 晶子（むらたあきこ） 早稲田大学文学学術院教授・本財団評議員

専門は、社会教育学(成人女性の学習理論、社会教育実践研究)、教育とジェンダー。3.11後は、被災地の女性センタースタッフが自らの経験を語り—ふり返る機会をつくり、記録を残すことに取り組んでいる。著書に『女性問題学習の研究』(未来社)。

同日開催

『3.11 富山妙子の絵によるメッセージ』展 「海からの黙示 津波」

「ニッポン 原発」

「フクシマ 春、セシウム137」

被災の物凄さ、人々の想い、鎮魂、自然の猛威を人災にしない決意など、すべての人の胸に震撼とした感動を湧き上がらせる作品群をご堪能ください。また、戦争の記憶を紡ぐ箱絵「記憶の糸」(ミクストメディア、2011年制作)で構成するインスタレーション「記憶の糸を紡ぐ」も予定しています。

展示時間 10:00～17:00 (無料)

<富山妙子プロフィール> 日本の戦争責任とアジアを視座に据え、抑圧される民衆や女性の解放をテーマに油絵を描く。常に政治・社会と芸術とのかかわりを追求し、90歳を越える今も意欲的に創作・発信をしている。



ミクストメディア 100号 写真;小林宏道

シンポジウム「災害・復興拠点としての女性センターを考える」参加申込書

日本女性学習財団 FAX番号：03-3434-8082

氏名	ふりがな		
住所	〒 —		
電話		FAX	
E-MAIL	@		
所属等			